

事務事業評価＆総合計画実施計画調査シート

	コード	名 称	区分	コード	名 称
事業名	15	市史編さん事業	会計	01	一般会計
基 本 策	36	歴史や文化を守り、未来へと引き継ぐ	款	02	総務費
施 策	7	市史の編さん	項	01	総務管理費
			目	17	市史編さん費
			細目	101	市史編さん事業
			細々目	01	市史編さん事業
基本計画該当頁		143	行革大綱の重点事項番号		7
担当部課	コード	010100	評価者氏 名	藤岡 淳次	連絡先52 - 4380
	名称	総務課(市史編さん係)			

事業の計画・内容

事業目的	対象等(何を、誰を)	成果(どうなるのか)
	伊賀市の歴史・文化に興味・関心をもち、ふるさと学習や郷土史研究等に取り組む市民全般(児童から大人)や伊賀地域の歴史に関心をもつ市外在住の住民や研究機関等 (※対象件数)	伊賀市の歴史・文化の形成過程を明らかにし、郷土の歴史に関する正しい理解を深めるとともに、市内外に当市の歴史的特色を発信することができる。また、編さんの過程で収集した資料を整理・保管し、次世代へ伝えると同時に市内外からの歴史に関する様々な照会に対し、適切に対応することができる。
根拠法令・要綱等 伊賀市史編さん条例・伊賀市史編さん要綱		
開始年度	平成 16 年度	関連事業 三重県史編さん事業
終了年度	平成 27 年度	
事業内容	●『伊賀市史 第6巻 資料編 近現代』の原稿を揃えることができた。●編さん事業を推進するための各種会議(市史編さん委員会2回、編集委員会4回、各時代の専門部会のべ20回)を開催し、編さんの基本方針や計画、編集方法等を検討した。●市史編さん資料の収集として、マイクロフィルムによる資料撮影とそれに伴う資料目録作成、伊賀地域関係論文の収集等を行った。●事業の普及・啓発活動として、『広報いが』に「市史編さんだより」を4回掲載した。●販売促進活動として、市内外の講演会等で出張販売を行った。	状況変化等
		・今後、計画どおりの刊行を進めるためには、大学院での専門過程を習得した人員の確保が必要となる。 ・本年度以降は毎年書籍を刊行する計画となっており、調査や掲載許可等に関わる諸手続、一般事務、原稿校正作業等により繁忙が想定されるため、臨時職員雇用が望まれる。

整備内容

1 建設用地	
2 建設面積(延床面積)	
3 規模・構造	
4 総事業費	

運営体制

1 運営主体	☐ 直営 ☐ 指定管理 ☐ 民間委託等 () 人 千円
委託先	
2 配置(予定)人員	
3 年間運営費	
4 市内の類似施設	

事業種別	継続	単独	事業類型	I	ソフト事業	2次評価対象分
------	----	----	------	---	-------	---------

事業実績

活動指標	単位	実績値		目標値	
		H19	H20	H21	H22
『伊賀市史』の発刊	巻	目標 1 実績 1	目標 0 実績 0	1	1
資料の調査・収集	点	目標 5,000 実績 6,190	目標 5,000 実績 5,130	5,000	5,000
委員会・専門部会の開催	回	目標 15 実績 28	目標 15 実績 26	15	15

評価指標

事業の成果を測る指標	指標設定の考え方	単位	実績値		目標値	
			H19	H20	H21	H22
『伊賀市史』各編の発刊巻数	『伊賀市史』全7巻を刊行計画に則り、発刊していく達成(累計)割合	%	目標 14 実績 14	目標 14 実績 14	28	42
『伊賀市史』各編などの有償・無償配布数(累計)	『伊賀市史』各編などの有償・無償配布累計冊数をもって事業成果の達成度合いとする	冊	目標 350 実績 120	目標 700 実績 1,045	200	700

評価

評価項目	ポイント	評価項目についてのコメント
必要性	3	歴史や文化を守り、未来へと伝えていくためには、市内外の歴史に関するあらゆる資料を収集し、市史を編さんすることが必要であるが、その作業を個人や利益追求を目的とする民間事業主で行うことは不可能である。また、資料には個人情報を含む行政資料や散逸の恐れのある個人資料が多数あるため、それら資料の適正管理や迅速な収集が必要である。
有効性	4	19年度末刊行した『伊賀市史 第4巻 資料編 古代・中世』の購入者の約1/3は市外在住者であり、市史の発刊を通じて市内外に当市の歴史的特色を発信しているといえる。また、市内外から歴史に関わる照会も増加している。
達成度	4	今年度刊行予定の『伊賀市史 第6巻 資料編 近現代』に掲載する資料の抽出を終え、年度当初には計画どおり原稿の入稿が出来た。 『伊賀市史 第4巻 資料編 古代・中世』をはじめ既刊書籍の頒布数は目標値を大幅に上回った。
効率性	4	事業の性格から、費用対効果を直接的に計ることはできないが、正規職員の削減や臨時職員の不採用で人件費を抑制した状態で評価指標の実績値を挙げつつある。また、専門の委員、調査員等の報酬も他市の事例と比べて抑制した状態のままであり、今後コスト削減の余地は少ないと考える。

総合評価	事業の方向性	改善についての取り組み
A	現状維持	事業費の大半が伊賀市歴史研究会の人件費と旅費であり、その単価設定も低く抑えているので、経費削減は困難な状況であるが、作業の効率性を高めることにより経費削減を努力する。 『伊賀市史』をはじめ既刊の書籍の販売促進に努め、歳入の増加を図る。

進捗状況	年度						平成19年度 決算内容				平成20年度 決算内容				平成21年度 計画内容				平成22年度 計画内容				平成23年度 計画内容				平成24年度 計画内容																
							事業内容	数量	単位	金額	事業内容	数量	単位	金額	事業内容	数量	単位	金額	事業内容	数量	単位	金額	事業内容	数量	単位	金額	事業内容	数量	単位	金額													
進捗状況	委託	⇔					報酬・報償費	114		(千円)	報酬・報償費	171		(千円)	報酬・報償費	186		(千円)	報酬・報償費	216		(千円)	報酬・報償費	216		(千円)																	
																											賃金・共済費	0		賃金・共済費	0		賃金・共済費	0		賃金・共済費	1,600		賃金・共済費	1,600		賃金・共済費	0
	工事	⇔				旅費	39			旅費	16			旅費	39			旅費	80			旅費	80																				
																										需用費	6,854		需用費	1,258		需用費	7,538		需用費	8,000		需用費	8,000		需用費	8,000	
																										委託料	16,429		委託料	20,720		委託料	20,100		委託料	22,600		委託料	22,600		委託料	20,100	
					備品購入費	609			備品購入費	43			備品購入費	28			備品購入費	50			備品購入費	50																					
進捗率 (%)						事業費計(A)		Σ	24,045	事業費計(A)		Σ	22,208	事業費計(A)		Σ	27,891	事業費計(A)		Σ	32,546	事業費計(A)		Σ	32,546	事業費計(A)		Σ	28,446														
事業投入人員							人件費(B)	1.8	人	12,960	人件費(B)	1.8	人	12,960	人件費(B)	1.8	人	12,960	人件費(B)	1.8	人	12,960	人件費(B)	1.8	人	12,960																	
フルコスト (A)+(B)									37,005			35,168			40,851			45,506			45,506			41,406																			

事業費(人件費除く)の財源内訳

(A)	事業費	24,045	22,208	27,891	32,546	32,546	28,446
Aの財源内訳	国庫支出金						
	県支出金						
	地方債						
	受益者負担						
	その他	509	2,287	659	1,300	1,300	1,300
一般財源	一般財源	23,536	19,921	27,232	31,246	31,246	27,146
	計	24,045	22,208	27,891	32,546	32,546	28,446
備考	その他特定財源の名称・補助基本額・率 地方債の区分と充当率等	書籍等売払代金等	書籍等売払代金等	書籍等売払代金等	書籍等売払代金等	書籍等売払代金等	書籍等売払代金等